

平成 29 年度情報通信エンジニア優良団体表彰

工事担任者スキルアップガイドライン委員会（委員長：小宮一三 神奈川工科大学学長）は、第9回（平成29年度）情報通信エンジニアの優良団体を選出し、企業の5団体、学校の3団体を11月に表彰しました。

平成21年度から「情報通信エンジニア資格者を多数保有し、本資格の認知度及び社会的地位の向上を図るとともに、資格取得に対し積極的に支援されている団体（企業や学校）」に対して工事担任者スキルアップガイドライン委員会より優良団体として表彰しています（図1）。

今年度で第9回を迎え、表彰されている団体は電気通信の最新技術の知識習得に向けた取り組みを推進し、安心・安全な情報通信基盤の維持向上と人材育成に多大な貢献をされています。



資格者証（上から一般・ゴールド・プラチナ）。

情報通信エンジニア資格は、毎年更新研修を受けることから多くの企業で自社の人材育成に、また、いくつかの公共団体等で入札の考慮条件にする等活用されています。学校では国家資格である工事担任者資格を多く取得している証しであり、知識・技能の日々向上を努力できる人材の育成に努力されている証しとなっています。



委員会の指導の下に毎年更新されるテキスト

図1：平成29年度情報通信エンジニア優良団体表彰 受賞団体一覧

順位	企業の部表彰（官公庁除く）	資格者数	支援内容
1	扶桑電通株式会社（本社：東京）	70名	<ul style="list-style-type: none"> ・申請料、更新料共に全額会社負担 ・資格取得を奨励・推進
2	株式会社 TOSYS（本社：長野）	52名	
3	大和電設工業株式会社（本社：京都市）	31名	
4	株式会社 ベータテック（本社：名古屋）	29名	
5	株式会社 日立システムズ（本社：東京）	28名	
順位	学校の部表彰	資格者数	支援内容
1	尼崎市立 尼崎双星高等学校	32名	<ul style="list-style-type: none"> ・工事担任者受験対策を実施し多数合格 ・情報通信エンジニア資格申請指導 ・一括申込等
2	京都府立 京都すばる高等学校	26名	
3	山口県立 下関工業高等学校	8名	

- ① 情報通信エンジニアの有効期限は1年間で、団体の資格者数は毎年変動します。対象資格者は1年以内に更新研修を修了した方です。（一財）日本データ通信協会のデータベース〈平成29年9月30日資格保有者〉により集計
- ② 情報通信エンジニア資格保有団体ランキングは、（一財）日本データ通信協会のホームページで9月と3月集計し、公開中。
<https://www.dekyo.or.jp/engineer/contents/ranking.html>

情報通信エンジニア優良団体表彰を受賞して

扶桑電通株式会社 サポートサービス本部 エンジニアリング統括部長 石川 守雄

今年度も情報通信エンジニア優良団体賞を賜り、誠に有り難う御座います。

2020年のオリンピック開催に合わせ、今後の情報通信社会は本格的なIoT社会に進むものと期待され、この分野の社会基盤を担う工事担任者に対しては、益々技術者としての最新の知識・技量が求められていく事になると思われまます。

以前はメタル配線での混信や漏話だけでの対策だけで良かったセキュリティ対策も、今は端末がPCやスマートフォンに変わる中、IP方式でのデジタル伝送が主流になり、セキュリティ対策としては暗号化対策やウイルス対策といった高度な論理層での対策が要求されるようになりました。

これら高度化する情報通信分野で、技術者が活躍するためには日々の学習が必要となりますが、「情報通信エンジニア」制度は正に工事担任者のスキルアップを目指した制度であり、これからのIoT社会を支える技術者育成制度とも言えます。



左から石川氏、
管理本部総務統括部人材育成推進室長 今野氏

株式会社 TOSYS NTT事業推進本部 品質工法部 部長 岩野 道隆

今年度も「情報通信エンジニア優良団体表彰」を賜り、大変光栄に思い厚く御礼申し上げます。

通信工事に携わる弊社にとって、工事担任者資格の取得は必須であることから、昨年度から資格取得に向けて、新入社員にeラーニング学習を社内導入しておりましたので一先ずは安堵いたしております。

近年は通信インフラのIP化やシステム化の加速により職種を問わず工事担任者資格の必要性を感じておりますが、資格取得が最終目標ではなく、今後の技術者のスタートとして更新も奨励しております。

「更新研修テキスト」は資格の主旨を社員に浸透させるためにも知識および技術情報が最新版に改定されており体系的な学習ができるとともに、繰り返し学習ができることにより社員の意識改革、スキルアップに繋がるものと考えております。

今後も体制ならびに環境を更に整え「情報通信エンジニア資格」の取得に取り組み、名実と共に満足度の高いサービスをお客様に提供するため、工事品質の向上に努めて参りますので引き続きご指導をよろしくお願いいたします。



中央 小川代表取締役社長
左 品質工法部担当部長池田氏、右 岩野氏

大和電設工業株式会社 総務部 部長 渡辺 卓也

当社は、京都を中心に65年間、地域の電話設備とLAN設備の提供を行っております。企業・病院・銀行・官公庁などの生命線であるインフラを扱う会社として日々進化していく技術に積極的に取り組んでいます。そんな中、昨年に続き今年度も「情報通信エンジニア優良団体表彰」を賜り今後の活動の励みになると感謝しております。

「情報通信エンジニア」資格を取得する事については、毎年、新しい技術や、より深い知識を取得できる為、技術のスキルアップにはとても良い手段だと考えており、AI・DD総合種の取得を推奨しアナログとデジタルの両方の技術を持つことを目指しております。又、技術職以外の営業職、総務職でも資格取得をしてくれています。

技術力の向上はお客様へのサービス向上につながりますので、今後も継続していきたいと考えております。



中央 棚谷(とちたに)代表取締役社長、
左 専務取締役坂上氏、右 渡辺氏

尼崎市立尼崎双星高等学校 電気情報科 教諭 藤井 克二

本校「電気情報科」では、電気・電子・情報・通信に関する基礎的な知識と技術の習得、また、産業界に貢献できる態度・能力の育成を中心に教育活動を行っています。

近年、入学生数の多くは資格取得を希望し、その数と種類は増加傾向にあります。本学科でも積極的に各種資格取得に取り組んでいます。電気工事士、無線技士、工事担任者などが中心です。資格取得を通して技術への理解と深化を図り、合わせて、自信と誇りを高め、学ぶ姿勢の育成にも努めています。

今回、3年連続の優良団体表彰受賞を大変光栄に思っております。一人でも多くの若者が技術者として歩んでくれることを期待して、今後も情報通信エンジニア育成に向けて取り組んでいきたいと思っております。



尼崎双星高等学校情報通信エンジニアの皆さん、中央 谷 清隆校長、後左 藤井氏

本校電気科に在籍する生徒には資格に挑戦する生徒が多く、1年生で第二種電気工事士、2年生で工事担任者DD第三種、第一種電気工事士などを受験します。2年生で挑戦する前述の資格は受験時期が被っていますが、どちらにも挑戦する生徒が多数います。朝7時からの早朝補習や放課後2時間の補習に積極的に取り組み、生徒自身の努力によって毎年7割の生徒が合格しています。資格に挑戦することによって向上心が生まれ、合格することで自信がつかます。

京都府立京都すばる高等学校 専門教育部長 情報科学科主任 教諭 尾上 受理

本校は、情報に関する学科「情報科学科」と商業に関する学科「会計科」「企画科」「ビジネス探求科」の計4学科からなる専門高校です。

「情報科学科」は、成長を続ける情報通信社会の中で、合理的に問題を解決できる論理的・数理的思考力を養うとともに、高度な情報技術・倫理観を持ち、サイバー空間の「自由・公正・安全」を守ることで社会の発展に主体的かつ積極的に寄与できる能力と態度を身につけることを目標としています。

昨年度より文部科学省から「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH)」の指定を受け、産官学連携による将来の情報セキュリティ人材育成に向けて取り組んでおります。

工事担任者試験については、ネットワーク技術の充実を図るため、資格取得の取組を推進してきました。工事担任者資格取得者には、情報通信エンジニア資格についても取得するように勧めており、常に最新の技術・知識を身に付けた技術者として活躍して欲しいと願っています。9年連続で優良団体表彰を受賞することができ、たいへん光栄に思っております。これからも日頃の学習活動はもちろんのこと、工事担任者および情報通信エンジニア育成に向けての取組に一層励んでいきたいと思っております。



福江 情報科学科学科長、尾上氏、久米川達弥 校長、
谷口 情報科学科副学科長、小西 SPH推進室長